

## 日本自慢話

平和の祭典オリンピックの冬季大会が、今年2月にソチで開催され、フィギュアスケート男子では日本史上初となる金メダルを羽生選手が獲得しました。そのほか、スノーボードアルペン女子で旭川出身の竹内選手や、ジャンプ男子で下川町出身の葛西選手が銀メダルを獲得するなど、北海道出身選手も多数活躍してくれました。

ジャンプ女子で期待されていた上川町出身の高梨選手がメダルを獲得出来なかったのは大変残念でしたが、その後、圧倒的強さで2年連続ワールドカップ総合優勝を達成したことは、オリンピックの金メダル以上に偉大な功績かも知れません。

最近のスポーツ競技、とりわけオリンピックでは、精密なフォーム分析や用具の開発など、科学技術の競争も激化しており、緻密な日本の技術力も選手達を後押ししているのではないのでしょうか。

話は変わりますが、昨年7月の「富士山」に続き、12月には「和食」がユネスコの世界遺産に登録されました。私も含め日本人は、洋食、中華、カレー、パスタなどをよく食し、「一汁三菜」などという言葉は一般家庭では死語のような状態を考えると、ちょっと後ろめたい気もしますが、改めてその良さを認識させてくれました。特に私は、年齢や体型などを考えると、和食中心の食事にシフトすべきでしょう。

ちなみに食関係の世界遺産は、フレンチ、地中海料理、メキシコ料理、トルコの麦がゆに続き5件目のようですが、世界最古の料理の痕跡が、縄文時代草創期の土器から発見されていることを考えると、日本の料理には世界一の歴史があり、遅すぎる登録だったのかもしれない。

また、話題を変えますが、2011年の東日本大震災では、日本周辺での観測史上最大の地震によって、未曾有の被害がもたらされました。しかし、この悲惨な状況下でも暴動や略奪行為が起らない、日本人の忍耐力、秩序正しさに世界中が驚嘆しました。おそらくは武士道に始まった多くの何々道をとおして、日本人は礼儀正しく謙虚な民族になったのではないのでしょうか。

このような国民性も相まってか、精密機械などに代表される科学技術に加え、最近では、日本の食やアニメなど日本の文化も世界中に広がっています。この「日本」の浸透が、平和で豊かな世界の形成につながればと密かに期待しています。

最後に、「寒地土木研究所もその一助となるよう研究に邁進したい」と締めて、私の日本自慢話を終わります。

(寒地機械技術チーム 上席研究員 大槻 敏行)

\* \* \* \*

表紙左上記号 ISSN 1881-0497の説明

国際的なコード番号である ISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館 ISSN 日本センターから付与されたものです。